

## 2013 年度 委員会活動計画案

(2013 年 3 月 25 日作成)

所管委員会	研究統括委員会	委員長： 若松 加寿江
委員会名	津波等の突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会	委員長名： 後藤 洋三
設置期間	常置（または 2013 年 8 月 ～ 2014 年 3 月）	
設置目的	東日本大震災では津波から避難できなかった 1 万 8 千名余の人命が失われた。懸念される南海トラフ巨大地震において同じ事態を起こさないためにも、また都市直下地震で発生しうる様々な課題に対処するためにも、地震・津波等の突発災害からの避難の課題を調査し対策に資する研究を行う。	
これまでの 具体的成果  (2012 年度までの 活動成果を含む)	<p>以下の 4 部会を設けて調査研究を進めてきた。詳細は各部会の計画案参照</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 津波避難の実態調査資料の収集・分析部会（略称：津波避難部会）</li> <li>2) 避難の課題の調査・分析部会（略称：都市避難部会）</li> <li>3) 避難シミュレーション普及部会（略称：シミュレーション部会）</li> <li>4) 避難の課題の国際交流部会（略称：国際交流部会）</li> </ol> <p>研究委員会全体の取り組みとしては、年次大会で OS を開催、研究委員会を 4 回開催し、高知、和歌山、静岡の事情に詳しい委員に事例紹介を求めて課題を共有した。</p>	

2013 年度 活動計画	<p>引き続き 4 部会に分かれて調査研究を進める。 研究委員会は 6 回開催を目標とし、共通的な避難の課題について関連委員に事例紹介を求め、課題を共有する。 研究委員会として以下の成果発表を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 年次大会において OS を開催する。</li> <li>2) 論文集特集号を企画し各部会報告と研究論文を掲載する。</li> <li>3) 防災関連の行政機関、消防などの防災機関、防災関連企業、ライフライン企業、コンサルタント、防災に関わる NPO 等の関係者と意識の高い市民を対象とした講演会を開催する。</li> <li>4) 上述の講演会の配付資料として報告書を作成する。</li> <li>5) HP による成果の公表に努める。</li> </ol>		
委員数	36 名	開催予定数	6 回
WG 等の活動計画 開催予定数	<p>津波避難部会 6 回 都市避難部会 6 回 シミュレーション普及部会 4 回 国際交流部会 6 回 論文集特集号企画編集 WG 2 回</p>		

## 2013年度 予算原案（委員会運営費など）

### 1. 一般経費（内訳）

科目（費目）	内 容	金 額（予定金額）
1. 印刷・コピー費		0 円
2. 会議費（借上）		0 円
3. 報告書作成費		85,000 円
4. その他		0 円
合 計		85,000 円

### 2. 旅費（内訳）

氏 名（委員名）	行 程	1 回 の 旅 費	支 給 回 数	小 計
後藤洋三	東京－高知	60,000 円	1 回	60,000 円
佐藤誠一	東京－高知	60,000 円	1 回	60,000 円
久田嘉章	東京－大阪	35,000 円	1 回	35,000 円
村上ひとみ	山口－東京	60,000 円	1 回	60,000 円
旅 費 の 合 計				215,000 円

予 算 金 額 の 合 計（一般経費・旅費）	300,000 円
------------------------	-----------

「2013 年度 日本地震工学会各委員会」アクションプラン

委員会名称	津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会
小委員会名称(必要に応じて)	

担当理事	若松 加寿江
------	--------

平成 25 年 3 月 25 日現在

実施月	活動計画	実施結果	備考
2013 4月			
5月	研究委員会：年度活動方針の確認		
6月	論文集特集号企画編集 WG		
7月	研究委員会：OS の企画検討		
8月			
9月	研究委員会：論文集特集号企画の確認 論文集特集号企画編集 WG		
10月			
11月	研究委員会：研究成果アップロード方針 の確認 年次大会 OS を開催		
12月			
2014 1月	研究委員会：報告会内容の確認		
2月	報告会の開催		
3月	研究委員会：成果報告の確認		
4月			
5月			

備考：定期的な活動、特別な活動についての補足、などを記載